

### 第3回 嘉麻市中小企業振興審議会 会議要録

審議会の名称：第3回嘉麻市中小企業振興審議会

開催日時：令和4年12月14日（水）10時00分～12時00分

開催場所：嘉麻市役所本庁舎 4A 会議室

公開又は非公開の別：公開

非公開の理由：（会議を非公開にした理由）

出席者：（委員）

日高 健 委員      北川 裕之 委員      大里 信義 委員      中村 博美 委員  
大田 岱次 委員      中野 勝己 委員      吉安 勝行 委員      大野 繁治 委員  
柳瀬 智幸 委員

（事務局）

産業振興課 課長 篠崎慶太      課長補佐 高井 朋仁  
課長補佐兼商工係長 田口美紀      商工係 白石 莉菜  
公益財団法人九州経済調査協会 藤井、平松、原島

（欠席者）

益田 政利 委員  
大里 岳 委員  
中村 瑠梨 委員

## 議 事

### 1. 推進する施策と主な取り組みについて

- ・嘉麻市は、所得の循環構造における域外への所得流出（消費・投資・経済収支）が多く、企業の生産・販売額（付加価値額）が低くなっていることから、周辺自治体より地域経済循環率が低くなっていることを説明。
- ・嘉麻市の令和3年度の事業者発注状況を説明。
- ・推進する施策と主な取り組み（一覧）の案を説明。

#### 【施策体系】

- (1) 中小企業の創業の促進を図る
- (2) 中小企業者の経営基盤の安定強化を図る
- (3) 中小企業の活用による地域内の経済循環の創出を図る
- (4) 中小企業者の新たな事業展開の促進を図る
- (5) 中小企業の人材の確保及び育成並びに職場環境の整備
- (6) 小規模企業者の事業の持続的な発展を図る

#### 【質疑など】

- (1) 中小企業の創業の促進を図るについて

→意見なし

- (2) 中小企業者の経営基盤の安定強化を図るについて

(委員)

工業団地を作って200名程度の雇用を目指すところがあるが、現在工業団地がないが、具体的にどこになるのか。むしろ誘致企業振興会の中で、飯塚のほうに出ていく企業もいるため、新規の企業で雇用を増やすだけでなく、現在の企業を守る方の施策も検討してほしい。

(事務局)

工業団地の整備については、現市長の公約でもある。一昨年度に工業団地の適地の候補地調査を行って、候補一位となった稲築の山野地区において、可能性調査ということで事業化の判断を行うための調査をやっている。現状のところ、事業を断念するような内容が出てきていないので、来年度の当初予算には測量調査などの事業化のための具体的な調査を行っていく予定になっている。開発の面積としては、10ha程度で分譲面積が4ha以上で計画している。この分譲の営業も併せて、いろんな企業に声かけしたいと考えているが、市内の企業にも嘉麻市外への移転計画があれば、新しい工業団地を勧めていきたいと考えている。

(委員)

そういう具体的な計画があるのであったら、計画本文の「就労実現に向けて検討します」という言葉を「検討」ではなく、変えてほしい。私たちも要望書を行政に出すことがあるが、よく「検討します」という言葉が返ってくる。検討ではなくて、実現に近づくような言葉回しに変えてほしい。

(事務局)

「推進します」に変更したい。

(会長)

工業団地を整備するということになるが、特定業種を誘致するのか？それとも、幅広い業種を誘致するのか？例えば、篠栗の工業団地は食品工業を対象にしている。

(事務局)

申し上げている通り、現在嘉麻市では、可能性調査を行っている段階である。今後の団地の営業方針については、今から決定していくことになる。事業規模においても、現段階の案なので、ここは流動的である。そもそも事業計画は7haなどを考えており、より規模を拡大する方向で検討に入ったが、いくつか難しいところもある。これから、営業方針は決定していくので、誘致企業振興会の方には早めに情報提供をしたい。

(委員)

工業団地はすでにいろんなところで造成されている。SWOT分析でどこに特徴があるかを分析して、特徴のある企業を誘致するということをしないと、団地を造成したが、入ってくる企業がないということになりかねない。

(事務局)

市としても当然、早く売りさばきたいというのが本音であり、嘉麻市は財政状況があまり良くはないなかで、財源を何十億円か投資して行っていくことになるので、そのあたりは十分ご意見を踏まえて対応していきたい。

(委員)

最近、状況が変わってきていると思うのが、熊本の大手半導体企業進出の話や、322号線ができたこともあるので、その辺の変化に対し、いろいろと工夫して、なんとかこの地域に新しい企業を誘致したい。

(会長)

企業インタビューの中でも、熊本での大手半導体企業の進出に伴い、半導体産業でかなり発注が増えているという話も合った。プラスの影響がすでに出ている。できれば、地元の産業との連関性が高い産業を集中的に誘致できた方がいい気もする。特定の項目ということよりも全体を通して、サービスを提供することによって、飯塚に出ていなくていいような状況を作るということではないか。

(3) 中小企業の活用による地域内の経済循環の創出を図る

(委員)

個別の企業マッチングの支援とあるが、事務局がどこになって、どんな仕組みで行うのかというのは具体的に決まっているのか？

(事務局)

まだ、具体的な方策は決まっていない。マッチングを進めるつもりで今後検討していく。

(会長)

ここでは、検討ではなく、具体的な提案を行うとある。

(委員)

企業同士のマッチングにあたっては、デジタル化の流れの中で、登録して市役所に来ないと相手企業が分からないではなくて、ネット上で嘉麻市の登録企業が見ることができ、面白そうと思ったところに連絡が取れるような仕組みが重要になってくる。そのあたりにうまくデジタル化を絡めていくことが必要になってくるのだと思う。

(会長)

いろんな商談会がオンラインで開催されている。商談会は、直接、顔を合わせたほうがいい場面と、オンラインのほうが簡単でいいという場面もある。使える場所では、デジタル技術を使わないといけないと思う。

(会長)

嘉麻市のマイナンバーカードの取得率はとても高く 70%ぐらいある。マイナンバーカードを使った新たなビジネスの展開の可能性において、嘉麻市はポテンシャルが高いのではないかと考えている。そのようななかで、地域内でデジタル事業に積極的に取り組む企業が大きな受け皿として窓口になり、マイナンバーカードを持った消費者を対象にデジタル化を進めるという話も考えているようなので、そのような取り組みを嘉麻市の特徴として生かしていかなければと思う。ただし、まだ具体的ではないので、新計画での表現を「勉強会の開催」としている。「検討」より一步引いているかもしれないが、今後取り組んでいきたいと思っている。

(4) 中小企業者の新たな事業展開の促進を図るについて

(会長)

嘉麻市では、デンマークとの連携によって、世界的なアウトドアメーカーとの関係が少しずつ進展しているので、そのあたりも具体的な事業として展開できればいいと考えている。

(5) 中小企業の人材の確保及び育成並びに職場環境の整備

(会長)

厚労省の指定を受けて嘉麻市でやっている嘉麻市地域雇用活性化協議会についても計画の中で連携など書き込んでいます。

(委員)

中小企業では求人を出すところが基本的に、ハローワークしかない。昨日、嘉麻商工会議所に自衛隊の人が来て、自衛隊では年間8,000人が退官されているとのことだった。そのため、地域雇用活性化協議会などと連携をすれば、自衛隊の人は体も鍛えており、高い技術力を持っている方が多いので、中小企業の技術で足りないところも、こうした雇用を生むことによって企業の育成にもつながるのではないかという話になった。自衛隊には、全国に拠点が7か所ある。福岡にも拠点があるので、連携を検討するのも良いのではないかと。

(事務局)

昨年、嘉麻市のまちづくり会社にいたが、そこでは人材派遣や人材紹介をやっている。当時、自衛隊の退官者も人材派遣のターゲットとして、雇用を流動化させたいということで相談に行った経緯がある。飯塚の管理事務所に伺ったが、ある程度の情報しかなく、春日市に本部があるため、そこと連絡を取ってくれという話だった。そこから進捗がない状況である。今後も社として連携する方針はあるため、営業の情報も考慮しながら市としても検討していきたいと思う。

(委員)

近隣の市の審議会でも議論にでた話だが、中小企業では即戦力を求めているということがあり、中途採用を望んでいるという話があった。その辺も少し計画のなかに要素としていれてはどうかと思う。

(会長)

私も飯塚市の中小企業に話を伺っていると、新卒学生はなかなか採用できないため、即戦力を求めているという話があった。育成することに時間をかけるよりも、中途採用の即戦力が欲しいという要望が現場である一方で、地元の大学、地元出身の学生を雇用すべきという話もあり、そこをどうバランスをとるかが難しい。中途採用に関する記述は全くないが、計画における取り扱いはどうするか？

(事務局)

①の地域の中小企業への就労支援で、企業と大学・高校・高専の連携で新卒の部分のみにフォーカスされてしまったというところがある。①の中に中途採用も即戦力として必要であるため、新卒のところと中途採用の記述両方を書いて、最初の施策の見出しにある（企業と大学・高校・高専の連携）を削除したいと思う。

(会長)

ジレンマがある。即戦力が欲しい一方で、新卒にこちら出身の大学生・高校生に行ってもらいたいというところがある。

(委員)

今、雇用の形態として、そのまま1つの企業だけに就職ということだけではなくて、ダブルワークで、ある企業に勤める一方、余った時間を他の企業で働くというような方向に向かっている。そのように人材不足を補うという手も考えていったらいいと思う。それから、パートも時間を区切って、子どもを育てながら働くということもあるので、そのあたりについて、フレキシブルな対応をしないといけない。高齢者もフルで働くことはできない。そのような細かい配慮をすることによって、ある程度人材不足ということが解消されていく。そういうやり方であったら、地元志向の嘉麻市には適切かと思う。

(委員)

嘉麻市内の企業で外国人の技能実習生を受け入れている会社が20社ぐらいあると聞いている。嘉麻市としては人材確保が切実な問題になっているかと思うが、市としても外国人の技能実習生の受け入れをしている企業との連携はできているのか？

(事務局)

市としては、特別に外国人の技能実習生を支援するなどにはできていない。

(委員)

結構、ミャンマーやベトナムの人を受け入れている企業がある。できれば、そういったバックアップも必要なのかと思う。その分、外国人が増えることを不安に感じる人もいると思われるが、必要かと思う。

(会長)

外国人技能実習生については、離れた場所に拠点をおく技能実習生の監理団体が、技能実習生を地域の企業へ仲介している場合もあり、地域社会との連携のところは今一歩足りないのかなと思う。それから、女性への対応やダブルワークの話、高齢者の話なども入れるべきかもしれない。あとは、2拠点居住で週末にはこちらで過ごして、リモートで仕事をするというような新しいライフスタイルも出てきている。そこをどう考えるか計画でも一言いるかなと思う。

(事務局)

今の話だが、計画の中に入れるという意味でよろしいか。取り組みとして入れる場合だと、企業の判断によってやることになるので、例えば勉強会をやるとか、取り組んでいる企業に話してもらおうとかそういう形になると思うが、いかがか。ダイレクトで、副業解禁や2拠点居住などは市として課題解決は実際問題難しいと思う。勉強会とか先進的に取り組んでいる企業を紹介するという形であれば、やれると思うがいかがか？

(会長)

表現としては、勉強会とかにはなるかと思うが、リモートワークのパイロット事業を市でやっていなかったか？公民館などを活用してやっていなかったか？

(事務局)

すぐには確認が取れない。

(会長)

いずれにしても、世の中はテレワークなどの流れに変わっていて、勉強会をするぐらいの話はあったがよいと思う。

(委員)

嘉麻市のまちづくり企業は人材派遣事業をされているのでしたよね。

(事務局)

まちづくり企業については、地域の人を市内事業者に結び付けるために、事業をやっている。雇用を幅広くするために、外国人のところまで広げていくという話はあるかと思う。ただし、まちづくり企業自体もなかなか資金繰りが苦しいので、すぐには難しいと思う。まずは地域雇用活性化協議会が、まさに市内企業と地域の人たちを結び付ける組織になる。現在、厚労省からの委託を受けてやっているが、周知はするものの実際人が集まらないというのが課題である。パートや高齢者、女性の方とか働く希望があってもなかなかマッチングできていないので、うまく情報が周知できていないのかと思っている。周知方法を工夫して増やしていきたいとは思っている。まずは、この地域雇用活性化協議会を使って、市として取り組みをしていきたい。

(会長)

外国人に関しての対応状況を、自分の学生が調べたことがある。監理団体（受け入れの中継企業）が久留米にいて、市に一応相談に行くようになっているが、十分な相談の窓口になっていないという指摘が卒論でなされた。対応がうまくできていないということで、これも勉強会の項目に入れる必要があるかと思う。確実に外国人労働者は増えてくる。そこで、社会的な繋がりがうまくできていればその人たちは安心して働けるといいう状況が生まれる。積極的にそういう輪を作っている島根県だったかの事例があったと思う。実際にそういうことを売りにして、うまく支援体制を立てている自治体がある。

(委員)

誘致企業振興会のメンバーに、従業員 7 名全員が外国人の会社があり、ニットの生産をしている。どうやって働いてもらっているとか、嘉麻市の中にもあるのでそういうところを調査したらどうか？

(会長)

我々の知らない中で、実態として外国人の受け入れが進んでいっているのかもしれない。勉強会の中で、実態把握まで行っていないといけない。

(委員)

掛け持ちで仕事するという話があったが、農家でイチゴや収穫期が決まっていて、一気に収穫しないといけないというものがある。人手がいるので、平日は普通に働いて、土日にバイトに行くとかある。また、リンゴもあるが、土日にバイトで応援行くとかそういうことは結構やっているのかと思う。

(事務局)

外国人技能実習生の件で、参考情報にはなるが、昨年度から今年度にかけて、熊本県の外国人技能実習生の調査を行った。その中で、特に農業や介護分野では20～30代の若い外国人の従事者の割合が非常に高くなっている。地域の特性に合わせて、そのような産業でどんどん技能実習生が増えていくと思う。そういった中で外国人が来た場合に、例えば方言が難しくて、なかなか上司の言っている言葉が分かりにくかったり、日本の働き方の慣習に慣れなかったりするなかで、分かりやすい日本語で日本人同僚が話しかけるなど、受け入れ企業側においても配慮した受け入れ方ができると、よりスムーズな形で外国人材の方も活躍していただける環境に近づけるのではないかと考える。企業側でもそういった取り組みをすればいいかと思う。

(事務局)

なぜそういったことをしないといけないかという点、数年前に「30年後に向けた九州地域発展戦略」の調査をしたが、すでに労働単価の高い外国人実習生は九州を選んでいない。農業分野で農業の技術を学びながら、スキルアップをしたいという外国人は千葉や埼玉、群馬近郊に行っている。理由は単純で、時給が高いから。同じような実習をするうえでも、給料が高い方に流れていく。九州に働きに来る人は、比較的時給単価が低くなる。これは、避けようがない流れであり、特に日本の場合はよほどドラスティックに農業のデジタル化が進まない限り、人手がいる一方で日本の人口が減ってくるので、外国人で穴を埋めようとする、外国人は給与の高いところに流れてしまう。その時に、大事になってくるのが、細かいケアとなる。日本語は何とか喋ることができるが、役所の文章が分かりづらいなどであればそこをフォローすることや、コミュニティで閉じてしまっていて、不満はないけど、終わったら母国に帰るだけという人を残ってもらうために地域としてどう作っていくかやっていく必要がある。そういうことを取り組んで、嘉麻市に来れば給料は安いかもしれないが暮らしやすいみたいな印象を持ってもらわないと、人手を補うときに技能実習生に来てもらうという行為自体が難しくなってくる。

(会長)

この計画に書き込みにくいことではあるかと思うが、対応していないといけないこ

とだとは思う。どこかに書き込みをしましょう。

(委員)

直接中小企業振興とは関係ないかもしれないが、まずは年寄りに住みやすい地域にするということで、定年退職した人がこちらの嘉麻市に住むということだけでも年金の分が入ってくる。また、取り組みを進めていって、嘉麻市は比較的外国人に優しいという認識をもってもらえるようにすることが大事だと思う。

(6) 小規模事業者の事業の持続的な発展を図るについて

→意見なし

(7) 全体を通して

(委員)

嘉麻市は、林業・農業においては福岡でも有数で面積が広い。林業と農業で生産されたものは、嘉麻市から出ていくものになると思う。その辺を盛り上げないといけないが、実際の問題として、山では耕作放棄地が増えていっている。この課題を市として考えていく必要があるかと思う。これは中小企業や小規模である、現在の農家だけでやって、嘉麻市の農業、林業を盛り上げることができるとは思わない。むしろ大企業が、嘉麻市全体の農業をすとか、あるいは嘉麻市全体の林業を全部やって、一つの大きな会社を作るみたいなことをすれば、非常に能率的な耕作ができると思う。やっぱり、嘉麻市の特徴をそういうことで作り上げていかないといけないと思うし、音頭を取るのは市しかないと思う。

(会長)

農業政策ではなく、それに企業を加えて、企業が農業をやるということが必要ということか？

(委員)

そうなる。個々でやってもしょうがない。大企業でITやその他の専門家がいるようなところでないといけないと思う。

(事務局)

以前、農政の部署にいたが、嘉麻市の馬見地区でかなりの面積の耕作放棄地があった。地元の人が陳情を持ってくるような状態であったが、新規参入の農家は現れずに、いろいろ探していきついたのが、キウイのライセンス契約であった。福岡市の会社がキウイを作るということで、ライセンスを買ってその土地一帯を借り上げて、キウイの産地として作っている。ある程度システム化したライセンスを例えば、嘉麻市の中で事業者の方が購入して仕組みの中で大規模化した農業をやっていくということはある得ると思う。その時の実体験もあるので、こういうことを活かしていければと思う。

(会長)

農地の面積が筑豊はすごく広い。農地面積の稲作の割合がすごく高いのが嘉麻市の

きな特徴で、おそらく福岡県の中で一番高いかと思う。一方で、筑豊地方に比べると、施設農業の割合がものすごく低い。単位面積当たりの生産性を見ると、施設農業をやっているところのほうが10倍ぐらい高い。こちらの農業の特徴は、稲作で施設を使わないということになる。ただし、大規模に稲作をやっている農家はいる。そこに企業が入ってきて、できるかという、難しいのではないかと思う。土地が分散していると効率が悪く、20haの面積でやっている人でも場所が10か所に分かれていたりする。また、企業は集荷ができるような場所が必要になるが、場所の問題と交通の面もハードルとして高い。

(事務局)

企業誘致の条例において、2年前に誘致条例に関して全面的に改正を行っており、これまでは農業を外していたが、農業を対象事業で入れている。そのため、市が企業を誘致する際には、農業を特に外しているわけではなくて、むしろ誘致企業の対象に入れ込んでいる。市としては、農業関連の企業も積極的に誘致していきたいという考えではある。

(委員)

それぞれの農家の思いは、農地は祖先から引き継いだもののため、どこにも貸しも売りもしない。ただし、自分のところで食べる分ぐらいは生産したいという思想が多い。だから、トラクターとかの機械類の導入も大きな企業であれば、ほんのわずかですむのに各個人がそれぞれ持っていて、減価償却していく必要がある。大規模化する時の一番大きな問題は、自分の土地という個人の思想になる。それをどう解決するかを公的に考えていかないといけない。個人に任せていても、そのままの状態がずっと継続する。市が音頭を取って、大規模化できるよううまいやり方を考えてほしい。山付きの土地も同じで竹がどんどん浸食してきている。

(委員)

八女市では、お茶農家を個人でやっているところと、法人で大規模にやっているところがあり、個人の方たちは集まっていわゆる農事組合法人を作ってやっていた。農家の集まりで法人を作って、例えば、Aさん、Bさん、Cさん、Dさんがそれぞれ持っている茶畑を農事組合法人として運営していく方法もある。

(委員)

実質的に土地を個人で持っていてまとまった効率的な運営ができる。

(会長)

稲作を農地でやるのか、施設型農業にするのかで全然違う。

(委員)

大きな企業になったら、いつどんな作物を栽培するのが効率的なのか、海外に輸出するにはどうしたらいいかなど考えることができるが、個人的な農業だとそんなことはできず、そこを何とかしないといけない。嘉麻市の一番大きな産業になる。

(会長)

農業・林業は、すごく重要な産業ではあるが、生産割合と人数もすごく少ないため、そこがづらいところである。これに関して、中小企業振興基本計画に入れることについてはどうか。私としては、入れづらいかと思う。すごく重要な嘉麻市のテーマではあるものの、計画には入れづらいのではないか。農業関係に関しては、6次産業化についてあるが、ここに一言書き入れるのはありかもしれない。

(事務局)

農業に関しては、農業振興の基本的な計画がある。むしろ、ここでは農業と企業との連携でとどめていただけないか。

(会長)

農商工連携は、まさに中小企業が入り込むところになる。冒頭の話で合ったように、食料品などを生産して販売するところが少ないので、農商工連携でそういう話が出てくれば繋がっていく話かとは思ふ。③農商工連携の促進のところに勉強会みたいなことをつけ加えておくのはいかがだろうか。

(事務局)

現在、農業と工業は融合しつつあり、植物工場などでは最先端のロボットが入りながら、葉物野菜などを作っていることから、従来の農業とは違う形が出来上がっている状況があるので、こういったところは今度の工業団地の件もあるし、市としてもアプローチしていきたいと思う。

(会長)

農業の場合は、生産物をどのように加工するかという問題もある。どうルートに乗せて販売するかということもあるので、海外に輸出などの出口を準備しながら、企業的な感覚でやっていくことが必要になると思う。市が海外に農産物を輸出するとき大きな壁に阻まれたという話もあるので、取り組んでいく必要性はあるが、いろいろ調べるところから始める必要があると思う。

(事務局)

以前、まちづくり企業では、ベトナムへの梨の輸出を行った。ただ、これも地元の農家が個人でやっているため、出荷の確実な約束ができないとか、寸前になって量が確保ができないというようなトラブルみたいなことが良くあり、会社的に大規模化して動かないとなかなか難しいなと思った。

(会長)

嘉麻市にとって重要な産業のため、加工して販売などが必要になってくるため、勉強しないといけないと思う。

## 2. 次回開催：令和5年1月30日（月）10：00～